

2006年4月30日

## RECARO FORMEL 3 CUP (ドイツF3) Round 3&amp;4 in Hockenheim

## 第3戦 決勝 レポート

4月28日(金) 第3戦予選 計測できず (30番グリッドスタート)  
 4月29日(土) 第3戦決勝 13位

大方の予想に反し、昨日の公式予選同様、晴れ間の靉々ドライコンディションの中、2006年のレカロカップ第3戦の決勝レースがホッケンハイムGPコースで行われた。

昨日の公式予選では開始早々にドライブシャフトジョイントが破損。1周も計測することができず、最後尾の30位からのスタートとなった松村選手は、上位進出のためにストレートでの追い抜きを想定した最高速重視のレスダウンフォースセットで決勝に臨んだ。30番グリッドはほぼ最終コーナーの立ち上がり部分に位置し、スターティングライトが米粒大程にしか見えないという状況の中、松村は無難にスタートを決め、1コーナー通過時点までに5台をパス、25番手に浮上する。そしてさらに、各コーナーで数台ずつを抜き去り、1周終了時点で、11台抜きの19番手でコントロールラインを通過する。その後、全体の順位が膠着し始める中、松村は果敢に前車を攻め続け、9日目には14位まで順位を上げ、20番手からスタートし13番手を走行していたチームメイトの#10 SCHRAML選手のすぐ後ろにまで迫っていった。しかし、ここまで順位を上げる間に上位グループとはかなりの間隔が開いてしまい、また、アンダーステアが強くなってしまったこと、ブレーキのパフォーマンスが低下してきてしまったことにより、なかなかペースを上げることができず。このままの順位でゴールかと思われたが、#55 GACHNANG選手が14周目にトラブルで後退したため、1つ順位を上げ、13番手でチェッカーを受けた。

最後尾からのスタートとなってしまったが、初めてのホッケンハイムで、25分間のレース中、多くのマシンをオーバーテイクし、13番手でゴールできたということは、松村選手にとって貴重な経験であり、大きな収穫のあった。中盤以降ラップタイムを上げることができなかった点や、ファステストラップタイムとの差が1.6秒もあったこと等、明日の第4戦決勝に向けて数多くの課題が残ったものの、タイムが上がらなかった原因が、レスダウンフォースにより高速コーナーで不安定だったことや、ギヤレシオが完全に合わせきれていなかったこと等にあることも判明。セッティングやギヤレシオの見直しをすることとなり、明日の決勝レースでの活躍が期待される。

結局第3戦を制したのは、第2戦に続き連勝を果たした#3 FOSTER選手であった。

## &lt;決勝後のドライバーコメント&gt;

まずは最後尾からアクシデントに巻き込まれることなく、無事にゴールできてホッとしています。明日は10番手からのスタートですが、もっともっとペースアップしていかないとトップグループには着いていけないので、しっかりと今日のデータを分析して、必ずポイントを獲得します！

## 第3戦 決勝レース

出走 30台

POS	No.	DRIVER	NAT.	GAP	BEST TIME
1	3	Joey FOSTER	GBR	26:15.747	1:37.468
2	16	Recardo BRUINS	KOR	3.639	1:37.285
3	5	Ferdinand KOOL	NED	7.282	1:37.680
4	8	Rengervan der ZANDE	NED	8.066	1:37.330
5	25	Nico HULKENBERG	GER	10.251	1:37.327
6	6	Ho-Pin TUNG	CHN	10.778	1:37.378
7	46	Harald SCHLEGELMICH	LAT	11.696	1:37.333
8	27	Riccardo AZZOLI	ITA	19.472	1:38.156
9	41	Johannes THEOBALD	GER	23.642	1:38.182
10	28	Salvatore GATTO	ITA	24.435	1:38.475
13	11	Hiroyuki MATSUMURA	JPN	37.547	1:38.815

第3戦決勝結果表 : <http://www.formel3.de/ergebnisse/2006-04-30-r1.pdf>



レーシングドライバー 松村浩之 オフィシャルウェブサイト

<http://www.hiro-matsumura.com/>